

早稲田社会学会ニュース 第41号

2013年4月20日発行

早稲田社会学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部 社会学研究室内
Tel: 03-5286-3742
E-mail: socio-office@list.waseda.jp
URL: <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第65回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告および『社会学年誌』第55号投稿の募集
4. 2013年度研究助成の募集
5. 第35回研究例会開催のお知らせ
6. 入退会者のお知らせ
7. 学会費納入のお願い

1. 第65回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会が、2013年7月13日(土)に、早稲田大学文学学術院(戸山キャンパス 33号館3階第1会議室)において開催されます。シンポジウムのテーマは「当事者性と支援を問う：排除される若者たちとその支援」です。詳細につきましては次項「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、6月中旬にお知らせする予定です。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、第3項をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

テーマ：「当事者性と支援を問う：排除される若者たちとその支援」

報告者：飯島裕子(一橋大学大学院)、古賀正義(中央大学)、津富宏(静岡県立大学)

討論者：池岡義孝(早稲田大学)、関水徹平(立正大学)

司会者：牧野智和(日本学術振興会)

<趣旨説明>

今研究活動委員会では、2012年度から3年間にわたって、「当事者性と支援」という一貫したテーマのもとに各社会領域を横断的に展望するべく、シンポジウム・研究例会を企画している。2012年度の「震災の当事者/貧困の当事者」に続いて本年度のテーマとするのは「排除される若者たちとその支援」である。若者をバッシングするキャッチフレーズの濫立こそ収束したかもしれないが、自己責任論的、心理主義的な若者バッシングは未だ

根強く、また若者たちが直面する社会的排除のリスクが改善されたとも言い難い。本シンポジウム・研究例会はそのような、バッシングの時期を過ぎた以後も存続する、困難を抱える若者の問題について考えることを目的とする。

ところで、2009年度の2009年の第61回大会シンポジウムのテーマもまた若者論であった。第61回大会では「若者をめぐる困難」というテーマのもとに、若者をとりまくマクロな状況を中心に報告と議論が展開された。

今年度のシンポジウムはそれに対し、困難を抱える若者が生きるミクロな状況、若者自身の声、そして支援の現場により注目しようとするものである。ご報告いただくのは以下の三名である（紹介は五十音順）。『ルポ 若者ホームレス』の著者であり、多くの困難を抱える若者への精力的な取材を続けてきた、一橋大学大学院（ノンフィクションライターでもある）の飯島裕子氏。次に長年、非行、高校中退、不登校、ひきこもり、高卒フリーターといった困難を抱える若者に、量・質双方の観点から精力的な研究を続けてこられた教育社会学者の古賀正義氏。そして、「静岡方式」として有名な、地域の人的資源を活用した青少年就労支援を行うNPO法人「青少年就労支援ネットワーク静岡」の理事長を務める、犯罪社会学者の津富宏氏。ご報告の後、池岡義孝氏には家族社会学の観点から、ひきこもりに関する理論的研究をしてこられた関水徹平氏にはその理論的な観点からそれぞれコメントをいただき、さらにご来場いただいた皆さんとともに、困難を抱える若者自身のリアリティを含みこんだ状況の理解、そのリアリティに寄り沿った有効な支援の方策について考えを深めていきたい。

（文責：研究活動委員 牧野智和）

3. 大会一般報告および『社会学年誌』第55号投稿の募集

申し込みを希望される方は、以下の項目をA4の用紙1枚に記入し、事務局宛て郵送またはE-mailにてお送りください。両方に申し込む場合には、それぞれ別の用紙で申し込みをお願いいたします。

大会一般報告、または『社会学年誌』第55号投稿、のいずれかを明記してください

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス
- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）

大会報告：申し込み締め切りは、5月15日（消印有効）です。

『社会学年誌』投稿：申し込み締め切りは、6月30日（消印有効）です。

『社会学年誌』原稿の提出締め切りは、8月末日（消印有効、郵送のみ受付）です。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退なさる場合は、8月15日までにその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、『社会学年誌』の最新号（第54号）をご参照ください。

現在早稲田社会学会会員でない方で発表もしくは投稿をご希望の方は、上記の申込書とあわせて入会申込書

をお送りください。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会 HP の「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

投稿規定（抜刷に関する規定）一部変更のお知らせ

これまで掲載論文の抜刷につきましては、費用は執筆者負担、ただし 30 部までは学会が負担することとしていましたが、『社会学年誌』制作費節減対策の一環としてこれを変更し、55 号より抜刷 30 部以内の学会負担は、大学院生・非常勤等の方のみを対象とさせていただきます（2012 年 12 月理事会承認）。ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。詳しくは『社会学年誌』54 号投稿規定付記 2 をご覧ください。

4. 2013 年度研究助成の募集

これまでに当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重して、次の要項により会員各位の研究活動を助成いたします。

助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動
助成額： 1 件 30 万円程度を上限とする

助成を希望される方は事務局までご連絡ください。追って「申請書用紙」をお送りいたします。申請書の提出締め切りは、5 月 15 日（消印有効、郵送のみ受付）です。なお、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して 2 年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告（または学会誌投稿）により、その成果を報告していただくようお願いいたします。

また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局までお問い合わせください。

5. 第 35 回研究例会開催のお知らせ

第 35 回（2013 年度第 1 回）研究例会が下記の要領で開催されます。多数のご参加をお待ちしております。

テーマ：「排除される若者たちとその支援」

日時：2013 年 5 月 18 日（土）14 時～17 時

会場：早稲田大学文学部（戸山キャンパス）33 号館 16 階第 10 会議室

司会者：木村正人（高千穂大学）

報告者および題目：

牧野智和（日本学術振興会）

「高校中退者の意識と中退後の状況について——東京都高校中退者調査を素材にして」

宮古紀宏（早稲田大学）

「カリフォルニア州における学校を起点とした多機関連携の現状——リスクを抱えた子どもへのオルタナティブ教育の功罪」

<趣旨説明>

7月の学会大会シンポジウム「当事者性と支援を問う：排除される若者たちとその支援」では、若者の当事者性——困難を抱える若者が生きるミクロな状況、若者自身の声、そして支援の現場——に接近していくことを主眼としている。本研究例会はそれに先立ち、困難を抱える若者をめぐる状況とその支援について、シンポジウムとはまた異なった観点——しかしその異なった観点から考えを深めることによってシンポジウムがより有意義なものとなるような観点——からのご報告をいただく。

ご報告いただくのは次の二名である。まず、日本学術振興会の牧野智和氏からは、昨年に行われた東京都立高校中退者調査を素材として、高校中退者が抱えるリスク、高校中退後の状況、その価値観等についてご報告いただく。特に、中退後の状況——就学、就業、そのいずれもなし——がどのような要因によって分岐することになるのかを考察することから、中退およびそれ以後の経路パターンに応じた支援の方策について検討する。

次に、早稲田大学の宮古紀宏氏からは、リスクを抱える子どもたちにどのようなアプローチが可能なのか、アメリカにおける多機関連携型支援の事例からその可能性と限界についてご報告いただく。日本でも同様の支援が近年進められつつあるが、宮古氏の報告からは、日本における支援の在り方を比較社会的な観点から考えなおす視点を得ることができるだろう。

お気軽にご来場・ご発言いただければと思います。

(文責：研究活動委員 木村正人)

6. 入退会者のお知らせ

2013年1月26日の理事会において次の方の入会が承認されました。

大貫挙学 氏 (東洋大学非常勤講師)

大脇亜衣理 氏 (名古屋商科大学経営学部)

堀真悟 氏 (早稲田大学大学院文学研究科)

7. 学会費納入のお願い

今年度の学会費を、同封の「郵便振替払込書」にてお振り込みくださいますようお願い申し上げます(今年度分をすでに納入されている方および名誉会員の方宛てには、払込書は同封しておりません)。

年会費： 一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号： 00100-3-38020

加入者名： 早稲田社会学会

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします！

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上